

VISION 2020

神を愛し、家族・友人を愛した聖和者

御嶽山噴火で4人の食口が聖和 / 真のお母様「み旨のための高貴なる犠牲」

- ①伊藤琴美さんの帰歎式（10月1日夕）
- ②水野利幸さんの帰歎式（10月3日夕）
- ③長山照利さんの聖和式（10月7日午前）
- ④三宅真一郎さんの聖和式（10月10日午前）



震災は予期せぬ方向からやってくる。

東日本大震災では普段、見慣れていた海から巨大津波が追い寄せて、逃げ惑う人々を家屋や車ごと飲み込んだ。誰がそのような事態を予想できただろうか。「海」に続いて、今回は「空」からだった。

長野・岐阜県境の御嶽山が9月27日午前11時50分ごろ、噴煙を上げた。紅葉登山を楽しんでいた登山者は、静かに「色のついた入道雲」が眼前に現れたため、好奇心とともにカメラを向けた。次の瞬間、噴火して、火山灰があたり一面を覆った。日中だというのに暗闇となり、視界を遮った。息もできない。さらに、大小無数の噴石が襲ってきた。そのスピードが時速約300キロという。プロ野球選手の投げるスピードの倍の速さで容赦なく飛んできた噴石が原因で、ほとんどの人は命を落としたと報じられている。

この事故で、私たちの愛する食口4人が聖和された。東愛知教区・豊田教会に所属する一世2人、二世1人、知立教会所属の二世1人である。4人の遺体が確認されたのを受け10月9日、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が所属教会を訪問され、4家族とそれぞれ面談し、祈祷された。（6面に祈祷内容）その日の朝、真のお母様から託されたメッセージを、悲しみの底に沈むお一人お一人を慰め、復活してもらいたいとの総会長の真心と願いを添えながら、次のように告げられたのである。

「今回の事故で聖和された方達は、天のみ旨のために尊く高貴なる犠牲として逝かれた方達だから、尊く良く迎えて送ってあげなさい」

そして、総会長は「この犠牲によってVISION 2020に向かう摂理が急速度発展するだろう」とも語られた。10日の三宅真一郎さんの聖和式は、徳野英治会長が主礼を担当され、故人を天国へと見送った。（3面に続く）



① 長山照利さんのご両親と面談する宋龍天総会長（右）
② 長山照利さんのご両親を激励する宋龍天総会長
③ 宋龍天総会長と長山照利さんのご両親
④ 宋龍天総会長と伊藤琴美さんのご両親
⑤ 伊藤琴美さんのご両親と

宋龍天総会長、ご遺族を慰労・励まし

級友、学校の先生から信頼と尊敬を獲得／二世の中核だった琴美さん、照利さん

宋龍天総会長は、聖和された4人の人柄や履歴をすでに記憶して、ご遺族と面談。お一人お一人がとても素晴らしい方で、周囲の人たちから信頼され、頼もしい存在だったことを賞賛された。そのうえで、故人について、質問をされたのだった。

◎伊藤琴美さんの両親

—お父さんは噴火が起きた時どこにいましたか。

「10合目にある山小屋から山頂に向かって50メートルのところにいました。琴美は山頂で待っていました」

—琴美さんの将来の夢は？

「宣教師になるのが夢でした。登山前日も、『お父さん、早く宣教に行きたい』と語っていました」

—どんな経緯で宣教師になりたいと思うようになったのでしょうか。

「友だちの影響もあったんだと思います。天父報恩鼓も熱心でした。ですから、教会でも『お姉ちゃん』と慕われていました」

—お母さんの感じる琴美さんについて、聞かせてもら

えませんか？

「本当に教会が大好きで、学校に行くよりも教会が好きでした。今度のことも、修練会に行ったりすることも、教会の事は自分で決めて、親には後で言うような感じでした。琴美は保育園の時に、夫のみ言のノートに、下手な字ですけど『伝道をしなければならぬ』と書いていました。夫は、あれは啓示だと話しています」

—親よりすごいじゃないですか。（笑い）

◎長山^{あかり}照利さんの両親

—今朝、私がお母様に聖和された4人のお一人お一人について説明をしてさしあげました。照利さんは、小学生の中でも本当に積極的な子で、琴美さんと一緒に天父報恩鼓のメンバーとして一生懸命練習して、そしてお互いに仲良く過ごしていた間柄だったこと。そして特に、ナイチンゲールのように、将来、医者となって外国に出て、病院に行けないような人を自分が助けてあげたい、何よりも神様を教えてあげたいというそんな立派なお嬢さんだったと。そしてその取材に来た記者が感動して涙

を流してその死を悼んだのです、と。その後、私が天正宮博物館の補佐官を通じて、「あなた（宋龍天総会長）が照利さんに関する報告をしている時にお母様がハンカチで涙を拭かれながら聞かれていたよ」と、そういう風に聞きました。お母さん、普段、照利さんはどんなお嬢さんでしたか？

「恥ずかしがり屋で、凄く明るくて、優しく、そして凄く神様が好きで、神様に対する思いっていうのは、とてもまっすぐでした」

—お父さんの印象は？

「子供が6人いますけど、照利だけ何かちょっと違うというか。優秀すぎるっていうか。この二人から生れるような子じゃないなっていう（一同笑い）。まあ、そのぐらいよい子でした…」

母親「先ほど学校に挨拶に行ってきたんですけど、先生が『照利ちゃんは偉大すぎました。私は照利ちゃんから多くを学びました』と。校長先生からも、今回の帰郷式、聖和式に凄く希望を持ちましたと言って下さいました」

—聖和式は特別ですね。聖和式に参加するとみ

んな感動する。

「マスコミも感動していましたね」

照利さんの父親が、めったにおきない噴火のちょうどその時に頂上にいたというのはとても偶然じゃないと思う、と話すと総会長はこう語られた。

「祈りに行ったのです。頂上というのは祈る所なんです。誰よりも早く頂上に行って、祈ったんです。VISION 2020の成就、食口たちが一つの心になって。そしてそもそも17人はそういう思いで登山に行っているじゃないですか。真のお母様のスイスの精誠を相続しようと。そういう心で誰よりも4人が早く頂上に行ったんですよ」

◎お母さん、あまり自分自身を責めないで

宋龍天総会長は、ご遺族の中でも特に、娘を亡くした母親の苦悩を気遣われて、次のように話された。

「母親として、とても辛いことでしょうが、お母さんがあまりにも自分自身を責めて涙を流すのはよくないでしょう。真の父母様のご家庭でも、5人の子女様が犠牲になりました。み旨の成就のため、人類のため、真の父母様を助けるために代身として犠牲になられたご子女様が逝かれる時、ご父母様は涙を流されませんでした。興進様が逝かれる時も、『私の代わりに興進が逝きました』と天の前に感謝を捧げる祈りをされました。

ですから、お母さん、大きな衝撃を受けられたことは良く分かりますが、感謝に変え、み旨のために犠牲になったと受け止めて下さい。なんでこんなことが起きてしまったのかという風に思っていたら、いろんな思いが湧いてきます。しかし、神様の復帰歴史を見れば、善なる人、純粋な人を犠牲にして、摂理を進めてこられたということ、私達は良く知っているではないですか。

アブラハムにおいても、自分の息子を犠牲にせよと命令をされた時、どれほど、父母の立場で苦しかったでしょうか。しかし、絶対従順という姿勢をもって、天は私とともにある、天のみ意が必ずあるとして、愛する息子を天の前に捧げたわけではないですか。ですから、天はアブラハム、イサクを祝福し、役事が出来ました。

私はこの度の犠牲を通じて、豊田教会の全ての食口が一つになった時、驚くべき発展、天の役事が、VISION2020の摂理が急速に進むようになる。そういう犠牲になったと考えていただきたいと思います」



①宋総会長と水野利幸さんのご遺族
②水野利幸さんのご子息と握手する宋総会長
③御嶽山の登山口（5合目）で祈禱する鴨野守広報局長（10月5日午後）
④三宅真一郎さんのご遺族を慰労する宋総会長
⑤宋総会長と三宅真一郎さんのご遺族

壮年部をリードした水野、三宅両氏

二世の2人を助けようとした水野利幸さん

◎水野利幸さんの家族

——美男子で立派な息子さんですね。何よりお父さんがいい顔していますね。以前に水野さんに会ったことないかな。

「真のお父様が、徳川家康の家系の者がいるはずだから探さない、というご指示があったとき、水野家が徳川家康の母、於大の方とつながって、夫がラスベガスへ行きました。その時、お会いしたかもしれません。

一方、私の祖父は札幌農大、今の北大を首席で卒業しましたが、無教会派の内村鑑三の影響を受けて洗礼を受け、クリスチャンになり、私の父もクリスチャンでした。その基台の上で、私が原理に出会い感動してこの道にきました」

——あの日、ご主人は一人で登られましたか？

「一人で朝早く出かけました。11時52分に噴火しましたが、私は11時59分に主人にメールしました。『睡眠不足だけど大丈夫？』。『今頂上ですか？気を付けてね』と。返事がなく、まさか噴火しているとは知らず、買い物をしていました。そうしたら母から電話があり、利幸が大変なことになったと…」

——その時、水野さんは頂上で琴美さん、照利さんを助けようとしていたと聞いています。

「神社の屋根の陰に隠れたら助かったのに、二人の方に向かったと聞いています。それで、子供たちと、『それが事実ならお父さんを誇れるね』と話しました。以前主人に、もし何か起こった時に、『パパだったら、誰かを助ける、それと

も逃げる？』と聞いたことがあります。『そんなの、助けに行くに決まっているじゃないか』。主人はそういう人なんです」

◎三宅真一郎さんの家族

三宅さんのご家族とは、聖和式が開催される葬儀場の控え室で面談された。式の準備のため、言葉を交わす時間が短かったが、その分、より一層、宋総会長は言葉に誠意を込めて、語られた。

——今朝、真のお母様に電話で、三宅さんのご遺体が発見されました、とお伝えしました。6500双の祝福家庭であり、壮年部の中核的なメンバーとして、なくてはならない存在だとお伝えしました。お父さんはどんな人でしたか？

長男「とても優しくかったです」

妻「最初に発見されたときの夫の写真を警察の方が撮影して携帯にメールしてくれました。その写真を見たとき、『神様のために忍耐してくれた、頑張ってくれた』と感じました。だから、主人は感謝して（霊界へ）行ったんだと思いました。事実、主人はとても、忍耐する人でしたから」

——お父さんが突然、聖和されましたが、心を痛めすぎないでください。真のお父様のそばで、もっと大きなお仕事をされたいと思います。お母さんとお子さんがともに力を合わせて生きていってください。

「ありがとうございます」

【宋龍天総会長の祈禱】



伊藤琴美さんを偲び、祈りを捧げる宋総会長（右）



水野利幸さんのご遺族と面談し、祈禱を捧げる宋総会長

尊貴なる天の父母様、勝利された天地人真の父母様。
尊い恩賜と愛の前に、心から心から感謝申し上げます。いつも日本に対して精誠を捧げて下さり、日本の食口たちを抱き愛して下さり、真に幸せて健康に生きていながら、天地人真の父母様を日本国民に証し、日本全体が、天が望まれる天の父母様の祝福家庭になるよう願われていることを、よく知っています。

この度、文善進様を日本に送って下さり、9月23日は青年学生1万名大会、9月27日は沖縄大会、9月28日は佐賀大会、そして、10月1日には教会創立55周年記念大会を通じて、お母様のみ言を私たちに与えて下さいましたことを、心から感謝いたします。

私たちはその時に語られたみ言を通じて、悔い改めました。そして新しく復活し、新しく天の父母様の子女として、青年として出発することを誓いました。2000年前、マルコの屋根裏部屋（屋上の間）において、120人の初代教会の信徒たちが祈りを捧げ、驚くべき役事が起きた如く、私たちは天地人真の父母様の下さった青年大会のみ言を通じて、日本を救い全世界を救っていく決意を固めて新しく復活し、出発しました。驚くべき神霊と真理が爆発する瞬間となりました。

また、私たちは基元節以降、天一国時代を迎え、真のお母様に正しく侍り、一つとなって歩むべき最も重要なこの時、天が願われる基準で一つになることができませんでした。深く悔い改め、新しく出発できるこの時であることを深く悟っていく者たちです。

この度の御嶽山の噴火、この事故を通じて、全体で63人の犠牲者・行方不明者がいる中、私たちの一世と二世合わせて4人が聖和しました。お母様が、彼ら聖和した一世・二世、伊藤琴美さん、長山照利さん、水野利幸さん、三宅真一郎さんは、天のみ旨のため犠牲になったと語られました。天の尊いみ旨のために犠牲となった善き人々に、私たちが良く侍っていかなければならないと、今朝お母様が語って下さいました。このみ言に私たちはあらためて感動せざるをえないのでございます。

彼らの犠牲が無駄にならないように、私たちはより一層、真のお母様に侍り、絶対一体、絶対孝の精神をもって、VISION2020を勝利してまいります。そしてこの豊田教会、第8地区の全ての食口たちが、日本教会全体が新しく復活し、新しい出発の契機を迎え、まことにVISION2020を成就し、天の望まれた孝子孝女、名門家、歴史の英雄として立てて下さいますよう、天の前に心より願うものでございます。今回の犠牲を泣いて悲しむのではなく、むしろ感謝してまいります。そして、彼らの犠牲を無駄にしません。天のみ旨と一体となって、前進する私たちとなります。

この4人の聖和者の上に、祈りと精誠を捧げてくださった真の父母様に感謝を捧げながら、全てを祝福中心家庭・宋龍天の名をもって、天地人真の父母様を代身して報告し、お捧げ申し上げます。アージュ



①聖和式で琴美さんにお別れを告げる参列者
(10月2日、愛知県刈谷市)
②琴美さんの帰欽式で献花をする友人たち
③琴美さんの帰欽式



常に明るく、とことん頑張る琴美さん

帰欽式に友人ら 700 人が参列

祝福二世の伊藤琴美さんの帰欽式と聖和式がそれぞれ10月1日と2日、主礼に郭炳憲知立教会長を迎え、愛知県刈谷市内の葬儀場で行われました。

伊藤さんは1996年7月17日生まれ。愛知県知立市在住の6500双家庭、伊藤光夫さん・良子さん夫妻の長女で、被災した時は愛知県立安城南高校3年生、享年18歳でした。

帰欽式には700人、聖和式には270人が参列。また、愛知県選出の国会議員や地元の地方議員など、各界から多数の弔電が寄せられました。

帰欽式では、まず聖歌39番「園の歌」を讃美した後、竹本俊也知立教会壮年部長が代表報告祈祷。「琴美さんは、教会の二世が集まる中で、『私は海外宣教に行きたい。そのためには英語が必要だから、英語が学べる大学に行かなくては』と、強い意志を訴えていました。二世の中でとことん頑張る姿、常に明るく最後まであきらめない姿は、教会のお姉さんとして十分すぎる光を放っていました」と述べました。

引き続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長、徳野英治・日本統一教会会長からのメッセージ代読とみ言拝読が行われた後、「新しい命への転換」と題して、郭教会長

が説教。「生きる、ということを永遠の物差しで見ると、地上にいることと天上にいることに、大きな違いはないということです。琴美さんはこれまでも、そしてこれから自由な思いのままに生きていかれると思います」と語りました。

そして、郭教会長は生前の琴美さんを偲びながら、「今日は、ご家族、ご親族の方をはじめ、教会の方々、学校の先生、生徒のお友達のみなさん、こんなにたくさんの方々にお集まりいただき、琴美さんも喜んでのことと思います。琴美さんの分まで、みなさんは地上で生き、ご活躍されることを願います」と結びました。

参列者による献花と焼香が行われた後、最後に遺族を代表して父親の伊藤光夫さんが次のように挨拶しました。

「尾根に差し掛かったところで、息が上がついていけない私に『先に頂上に行ってるね』と話をしたのが最後です。私が言うのもなんですが、琴美はいい子でした。いつも友だちのこと、世界のことを口にしていました。やりたいことも夢も多かったらと思います。こうして、みなさんとお別れしなければなりません、皆さんと過ごした1日1日は永遠に忘れないでしょう。今日は本当にありがとうございました」



①青年学生1万名大会の会場で(9月23日、千葉市)
②真剣な表情で天父報恩鼓を披露する琴美さん
③琴美さんの人柄などを報じる新聞記事(産経新聞10月1日付)

送辞

友人代表 竹内美弥恵

こっちゃんへ

9月27日の11時半にLINEで「頂上についてよー」と笑顔の写真が送られてきました。その後、噴火がおこって、連絡がとれないという話を聞いて心配しましたが、こっちゃんのことだから絶対帰ってくるよとみんなで話していました。でも、こんなにも早くこっちゃんの聖和の日を迎えるなんて誰も想像できなくて驚きの心でいっぱいです。

私がこっちゃんと初めて会ったのは2歳くらいの時だったよね。それからは、本当の双子の姉妹のように毎日たわいもない話をしたり、楽しいこともいっぱいあったね。時にはこっちゃんワールド全開なこっちゃんについていけなかったり、時にはこっちゃんの毒舌な言葉に傷ついたりしながら、一緒にいることが当たり前のように生きてきたから、こっちゃんがない生活なんて考えられません。

中学になって、太鼓をやり始めてからはより一緒にいることが増えたよね。太鼓をやっている時のこっちゃんは私にとって憧れだったんだよ。知ってた？ 踊りも上手で、太鼓をやっている時に神様を求めていく気持ちも本当に純粋で私の憧れでした。

(中略)

私たちは「霊界ってどんなところなんだろうね?」という話もしていたよね。誰もが行く所ではあるけれど、あまりにも突然のできごとだったから、びっくりしていませんか? 親孝行なこっちゃんだからもつとやりたいこともいっぱいあったのにと思っているかもしれません。でも、太鼓のメンバーがこっちゃんの夢を見たことを聞きました。その夢ではこっちゃんがとてもきれいな花畑のような場所で満面の笑顔だったということを聞いて少し安心しました。

地上ではこっちゃんともう会えないのはさみしいけど、これからは今まで以上に自由に動き回ることができるので、ずっと一緒にいられるから、みんなと一緒に神様のために頑張っていこうね。霊界に行っても、こっちゃんなら神様のために大活躍すると思います。

こっちゃん。今日のこの聖和式をもってこっちゃんはいなくなり神様のもとへ、神様の娘として出発します。短い18年の人生だったけど、こっちゃん本当に今までありがとう! また80年後ぐらいに会おうね。いってらっしゃい!



①水野利幸さんの帰歎式（10月3日、愛知県豊田市）
②水野さんの聖和式で「聖和の辞」を述べる福崎聖剛・東愛知教区長（10月4日）

送辞で次男、「お父さんは僕の誇りです」

水野利幸さんの帰歎式・聖和式を挙行

水野利幸さんの帰歎式と聖和式が10月3日、4日の両日、愛知県豊田市の斎場にて行われました。主礼は福崎聖剛・東愛知教区長が務めました。

水野さんは1954年5月26日生まれ。統一教会の6000双祝福式に参加し、時子さんと結ばれました。所属する豊田教会では壮年部長を務め、教会長や教会員からの信頼が篤く、「ために生きる」信仰生活を実践する模範的な信徒でした。享年60歳。

10月4日午前11時から行われた聖和式には、親族や教会員、友人知人など約400人（帰歎式は500人）が参列。また、また、愛知県選出の国会議員や地元の地方議員など、各界から多数の弔電が寄せられました。

小林直子・東愛知教区婦人代表の報告祈禱に続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長と徳野英治・日本統一教会会長のメッセージが代読された後、水野さんの略歴が紹介されました。

聖和の辞で福崎教区長は、「教会では物静かで、人に言われなくても椅子を並べたり、机を並べたりする人です。本当に優しいお兄さんのような存在です」と水野さんの人柄を紹介。そのうえで、「水野さんが地上で生きられた証である息子さんたちが立派な青年になられたのは、水野さんがために生きられ、ご夫婦が仲むつまじいからだだと思います」と語り、祝福家庭としても模範的生き方をしてきた

水野さんを称えました。

また水野さんの幼友達の男性は、「山頂では辛かっただろう。でも、安心しろ。奥さんは立派だし、息子たちは、いい子に育ったな。お前よりいい男になったよ。あの世から、見守ってやれよ。利君、ありがとうな。お前のことは忘れないよ」と心からのメッセージを語りました。

続いて、次男の直利さんが送辞で、「言葉足らずでも、父さんが僕に対して誇りに思っていてくれたのは、伝わってきました。いつも陰ながら支えてくれてありがとう。父さんの後ろ盾を感じていました。そして、父さん。僕の父であってくれて、ありがとうございます」と深い感謝の言葉を述べました。（次頁に全文掲載）

聖歌70番「善き闘いを成し終えて」を讃美し、参列者による献花と焼香の後、全体で黙禱を捧げました。

最後に、長男の公孝さんが家族を代表して謝辞を述べ、「今では兄弟も皆それぞれ自立して、父とは一緒に過ごす時間は少なかったのですが、誕生日には必ずプレゼントやメッセージを贈ってくれるような心温かい人でした。また、さり気ない父からのアドバイスで、心強く励まされたこともありました。家庭の外での父の最近の様子はわかりませんでしたが、本日このように多くの方々が父とのお別れに集まってくださり、父をより理解できたような気持ちが致します」と語りました。

送辞

平成26年10月4日 水野直利



水野さんに別れを告げるのご遺族（10月4日、聖和式で）

本当に突然のことで、言葉になりません。父さん自身、一番びっくりしているんじゃないかと思っています。

最近、思っていたことがあります。僕も25歳になって、世の中のことなどいろいろわかってきて、あまり両親に、今までの様々なことに対して、感謝の思いを伝えられていないな、ということです。

どうしても、男3人兄弟でぶっくらぼうだし、父さんもあまり感情表現をしないので、そういう思いを伝えるのを避けていました。

ちょっとお父さんに聞こえるか聞こえないかの声で「ありがとう」と頼りなく伝えてみたりしたこともあります。

僕のそういった不器用さは父さん譲りです。

父さんは、いつも前向きで、責任感が強く、弱音を聞いたことがありません。感動屋で、思い余って感動してしまったときは、その姿を見せないようにしていましたね。僕は気づいていました。

本当は、父さんの弱いところとか、悩みとか、そういった部分も含めてもっと、いろいろと話したかったです。

正直、父さんの丸ごと全部を知りたかったです。言葉足らずでも、父さんが僕に対して誇りに

思っていてくれたのは、伝わってきました。

それなのに、何も言えないまま天国に行ってしまいました。

本当だったら、本当だったら、もっと伝えなかった感謝の思いがあります。こんな形になってしまい悔しいですが、聞いてください。

小さいとき、山に虫取りに連れて行ってくれて、ありがとう。カブトムシのオス、いっぱい取れたね。

真夏の夜、ホタルを全力ダッシュで捕まえてくれて、ありがとう。あの時のホタルの光は最高にきれいだったね。

魚釣りに連れて行ってくれてありがとう。米粒ひとつで入れ食い状態、大量に釣れたね。

何か新しいことを始める時、いつも「やってみろ!」と背中を押してくれてありがとう。

大学受験、部活に明け暮れて、勉強の方で挫折し、浪人した時、「この1年、いい経験になるぞ!」と励ましてくれてありがとう。あの1年、本当にいい経験になりました。

いつも陰ながら支えてくれてありがとう。父さんの後ろ盾を感じていました。

そして、父さん。僕の父であってくれて、ありがとうございます。

父さんは、僕の誇りです。父さんの生きた証は、僕の中で生き続けます。

今日はたくさん、父さんを慕ってくださる方々が、来られています。父さんは幸せ者ですね。

背中で語る父さんの思いを胸に、これから兄弟3人で力を合わせ、母さんとはあちゃんを支え、手を取り合って頑張っていこうと思います。

天国から見守っていてください。

また会える日まで。



①照利さんの帰歺式（10月6日夕）②照利さんの聖和式で送辞を述べる姉の鈴加さん

数多くの人から愛された照利さん

長山照利さんの帰歺式に700人参列

祝福二世の長山照利^{あかり}さんの帰歺式と聖和式がそれぞれ10月6日と7日、主礼に福崎聖剛・東愛知教区長を迎え、愛知県豊田市の斎場で行われました。

照利さんは2003年6月3日生まれ。愛知県豊田市在住の36万双祝福家庭、長山幸嗣^{こうじ}さん・文枝さん夫妻の次女で、豊田市立平和小学校の5年生、享年11歳でした。バスケットボール部に所属するかたわら、和太鼓「天父報恩鼓」でも活躍する、積極的かつ優しい性格でした。

聖和式には小学校の友人を含む450人（帰歺式では700人）が参列。また、愛知県選出の国会議員や地元の地方議員など、各界から多数の弔電が寄せられました。

式典では、小林直子・東愛知教区婦人代表による報告祈禱に続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長と徳野英治・日本統一教会会長のメッセージが代読された後、故人の略歴が紹介されました。

聖和の辞で福崎教会長は「照利さんは地上でも多くの人に囲まれ、多くの人から愛されていました。教会でも幼い子供たちの世話をしている照利さんの姿をよく見かけました。霊界に行っても周りの人たちのために生き、天国を作っていられると思います。笑顔で照利さんを天国に送ってまいりましょう」と結びました。

姉の鈴加さんは「あかりへ、今までありがとう。11年という短い人生だったけれど、どんなことでも決してあき

らめない子でした。バスケも一生懸命だったね。霊界でもずっと見守っていてね。あかり大好きだよ」と、涙ながらに送辞を述べました。

続く映像で、照利さんの作文「しょうらいのゆめ」が紹介され、小学1年生の時に読んだナイチンゲールに感動し、医者になるためにたくさん勉強するとともに、人を大切に思う気持ちを強めることが大事だ、という内容が読み上げられた際は、会場のあちこちからすすり泣く声が聞こえました。

照利さんを偲びながら、聖歌42番「神とともに居まして」と聖歌70番「善き闘いを成し終えて」を讃美。参列者による献花の後、全体で黙祷を捧げました。

最後に、遺族を代表して、父の幸嗣さんが次のように感謝の意を表しました。

「子を失うという経験をしたことのなかった私には、絵空事のように思っていました。今、失ってみたいとわからない心情を味わっております。

将来はお医者さんになりたいと言っていました。アフリカに行って、貧しい子供たちの病気を治してあげたいと話したこともあります。

照利の夢はかないかもしれませんが、お友だちのみなさんは、照利の分まで生きて夢をかなえて下さるようお願いします。今日は、このように多くの方にお集まりいただき、誠にありがとうございました」



①「しょうらいのゆめ」を朗読した照利さん
②照利さんの遺品。左端は、御嶽山へ背負って行ったリュックサック

しょうらいのゆめ

四年 長山照利

私のしょうらいのゆめは、医者になって外国へ行き、病院に行きたくてもまずいため行くことの出来ない人達のために、かん者さんを観てあげることです。

どうして私が医者になりたいかという、私が一年生のとき「ナイチンゲール」の本を読んだ、私もこうなれたらいいなと思ったからです。ナイチンゲールは、きけんな戦地に行き、ど力をしながら、かいごのきそをきずき、かん者さんに、生きる希望をあたえた人です。とても感動しました。

私も外国で医者をして、他にもやりたいことがあります。一つ目は神様の話をし、神様のことを教えてあげることです。二つ目は、村の人達に「天父報恩鼓」をおどってあげることです。三つ目は、家などを災害が来てもこわれないように、じょうぶに作り直してあげたいです。それらの事を通してみんなに少しでも元気になってほしいからです。

次に私が、医者になるためにがんばらないといけなことが、いくつかあります。

一つ目は、たくさん、勉強をすることです。医者とは、頭がよくなくてはいけません。たくさん勉強しなければいけません。

二つ目は、「人を思う気持ち」を強めることです。相手の話をよく聞いて、かん者さんの不安を少しでも取ってあげたいと思います。でも外国に行ったときだけ人を思っても、きつとうまいかないと思うから、今から、人を思う気持ちを習慣づけて、いくことが、たいせつだと思います。そうすることで、きつとうまいと思うからです。これらのことを、成功させるためには、いろんなことが必要かもしれないけど、ナイチンゲールがそうだったように、私も、たくさんど力をして、希望をすてずに、ゆめにむかってがんばりたいです。

（原文のまま）



①三宅さんの帰歿式で献花する宋龍天総会長（10月9日夕）
 ②三宅さんの聖和式で「聖和の辞」を述べる徳野英治会長
 ③三宅さんの聖和式（10月10日午前）
 ④聖和式で三宅さんの棺を囲むご遺族

長男「悲しみ乗り越え、家族が一つに」

三宅真一郎さんの聖和式、徳野会長が主礼

6500 双祝福家庭の三宅真一郎さんの帰歿式と聖和式がそれぞれ 10 月 9、10 日、愛知県豊田市内の斎場で行われました。

三宅さんは、東愛知教区豊田教会所属で、妻の真弓さんとの間に 2 男 2 女の 4 人の子女がいます。享年 50 歳でした。

主礼に徳野英治・日本統一教会会長を迎えて行われた聖和式では、小林直子・東愛知教区婦人代表の報告祈禱に続き、矢野治佳総務局長が宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長のメッセージを代読しました。

旧約聖書ヨブ記 2 章 1 ～ 10 節の聖句拝読の後、主礼の徳野会長が「聖和の辞」を述べました。

また、長男の隆太郎さんが送辞を述べ、「今回のお父さんの死は、僕たち家族を含め、多くの人に影響を与えたと思います。ただ、亡くなって悲しいと思うだけはいけないと思います。僕は心の中では、お父さんが安心できるよう変わっていこうと思います」と父親の突然の聖和に戸惑いを見せながらも、深い決意の言葉を語りました。

次に、愛知県選出の国会議員や地元の地方議員など、各界から寄せられた弔電が紹介された後、参列者がそれぞれ献花。聖歌 70 番「善き闘いを成し終えて」を讃美し、全体で黙禱を捧げた後、最後に遺族を代表して妻の真弓さんが挨拶を行いました。

聖和の辞（要約）

日本統一教会 会長 徳野英治

突然子女を失った父母の心情は、体験しない限り、本当の意味で実感し、理解することはできません。

しかし心情を整理する上で、真の父母様のみ言を参考にさせて頂ければ幸いです。

真の父母様が韓国のある大先輩の聖和の報告を受けられた時に、「人間は早い、遅いの違いはあったとしても、いずれ霊界に行く。その宿命は何人も避けることができない。故に私たち自身も、自分自身の聖和に対して、また身近な家族の聖和に対して、いつでもそのような決定的な瞬間を迎えてもよいという、心の覚悟が常日頃から必要である」と語られたと聞いています。

また 2008 年 12 月 10 日、ラスベガスでお父様が「実の子供を 5 人も、自分よりも先に霊界に送った親の気持ちが分かるか？ それが先生の立場だよ。5 人の真の子女の一人ひとりの聖和を、天の摂理を飛躍的に推進させるための清い聖なる供え物として受け取ってください。私は一切そのことを恨まず、感謝して子女を天に捧げます。このような祈りを捧げてきた先生である」。このようなみ言を直接聞くことができました。

お父様の 2 つのみ言を心に深く受け止めて頂き、この度の心情の十字架ともいべき試練を、ご家族ともども助け合い、支え合いながら、どうか乗り越えて行って下さい。

今日、拝読しました旧約聖書のヨブ記は大変有名です。神様はサタンを前にして、ヨブという人物はどんな大変なことがあっても、神に対する絶対信仰を捨てない。私に対する感謝の気持ちを忘れない男だ。人生を正しく生きてきた人物である、と自慢します。

するとサタンは、「人間は自分の命が奪われるような、そんな試練に遭遇した場合には、思わず不満を述べたり、呪いの言葉が出たり、あるいは人に対して不満や恨みをぶついたりする」。それで、神様はサタンに、ヨブを試練することを許します。

サタンはヨブを撃ち、足の裏から頭のとっぺんまで、いやな腫物が全身に表れて、朝から晩まで悩み相当、苦し

んだわけです。隣にいた妻は「こんな大変な目にあったんだから、あなたは神を恨んで死になさい」と言います。しかし、ヨブは「我々は神から、幸いも受けるのだから、災いをも受けるべきではないか」と言って、「ヨブはそのくちびるをもって罪を犯さなかった」と聖書にあります。この行動ゆえにヨブは、口と行動で罪を犯さなかった「義人」とであると、キリスト教の世界では大変尊敬されています。

私たちの人生は、幸運なこともあり、不幸なこともあります。恵まれることもあれば、恵まれないこともあります。

問題は、恵まれた時には神様を賛美し、人に対し感謝を述べ、人に対し優しく愛をもって対しやすい。しかし、悲しいことに会った時には、ついつい自らの運命というものに不満を持ちやすいのが、私たちです。

しかし、私たちは目の前でどんなことが起きたとしても、それに深い神様の何らかの御意がある、何らかの意思があると受け止めながら、感謝し、甘受する。その姿勢が、大切であろうと私は思います。

イエス様という方は、地上におられる時に、何度も「敵を愛せ」と言っておられましたが、自らが十字架の試練の絶頂でそのみ言を実践されたのです。

文先生もそのご生涯は苦難の連続でありました。無実の罪で投獄され 6 度まで追いつめられるような苦難の路程を歩まれました。しかし、文先生は「振り返ってみれば、すべて愛であった」という有名な言葉を残されています。

このように、ヨブの信仰、イエス様の敵をも愛する愛。また文先生にみられる 6 度まで牢屋に入れられながら、それがすべて神の愛であった、というとらえ方。それを私たちは、学ぶことができます。

さて、聖和された方の一番の願いは何であろうか、と考えてみると、聖和された 4 人の方の分まで、私たちが愛天、愛人、愛国を実践すること。言葉を換えれば、私たちが神様のために生き、人のために生きることを実践していくことによって、4 人の方々の聖和を意味あるものにし、価値あるものにすることができると考えます。



徳野会長ご夫妻とご遺族



ご遺族を激励する徳野会長ご夫妻
(10月10日)



徳野会長ご夫妻と御嶽山噴火からの生還者との懇親会 (10月10日)



御嶽山噴火からの生還者の方々と



徳野会長ご夫妻とご遺族との懇親会 (10月10日)



長山照利さんの帰郷式会場で行われた記者会見 (10月6日)



豊田教会で行われた記者会見 (9月30日)



長山照利さん発見を報じる新聞記事 (「中日新聞」10月5日付)



水野利幸さんを取り上げた新聞記事 (「中日新聞」10月2日付)



三宅真一郎さんについて報じる新聞記事 (「朝日新聞」10月8日付)